第3章 分野別の施策と展開

第1節 感性と自立心を育む町

第1項 みささ教育のすすめ

1 学校教育の充実

現状と課題

○全国的に学力低下が懸念されている中、本町の児童生徒については、基礎的・基本的学力の安定した定着が図られています。

○豊かな心を育むため、総合的な学習の時間において地域の協力を得ながら行う学習をはじめ、国内姉妹都市とのスポーツ交流、友好関係を結ぶフランスと台湾の小中学校への訪問など、国際色豊かな相互交流にも取り組んでいます。

○中学生の体力や運動の状況は、身長と体重を含むすべての項目で、全国平均と比較して高い値が見られる傾向にあります。今後も発達段階に応じた運動を通じて体を動かすことを生活習慣化させ、基礎体力の向上に取り組めます。

○新たな学習指導要領に基づき総授業時間数が増加する中、心と身体を共に育む「みささ教育」の実現に向けた取組みとして、ふるさとへのすばらしさを肌で感じ、ふるさとを愛する教育の充実が重要となります。

○いじめは、すべての児童生徒に関係する重大な問題です。「どの学校にも起こりうる」という認識のもと、的確な状況把握に努め、早期発見と迅速な対応が求められます。小学校統合により児童を取り巻く環境が大きく変化することから、小さな変化を見逃さないよう十分な支援体制で臨むことが求められます。

○特別な支援を必要とする児童生徒は全国的に増加傾向にあり、一人ひとりの個性や特性に応じた教育がますます重要になってきます。一人ひとりに合わせた適切な指導や必要な支援が行える教育環境の充実が必要です。

○本町における就学援助費の支給対象者数は年々増加の傾向にあります。児童生徒を取り巻く家庭の経済的格差が教育の格差につながることはないよう、継続した支援が必要です。

○必要な教室の種類と部屋数の確保をはじめ、新たな学習指導要領に沿った教育を実践するための教育環境の整備が必要です。また、教職員の学校現場における職場環境の改善も急がれます。

【施策の体系】

学校教育の充実

- 確かな学力の育成
- 豊かな心の醸成
- 健やかな体の育成
- 豊かな関わりの醸成
- ふるさと愛の醸成
- 教育コミュニティづくりの推進
- 教育環境の充実

○本町は放課後児童クラブを3ヶ所開設し、放課後などの時間帯における適切な居場所の提供と、遊びや生活指導を通して児童の健やかな育成を図っています。小学校の統合に伴い、子ども達が安全で安心して利用できる環境の整った放課後児童対策の施設整備が急がれます。

みさきスタイルの実現目標

○子どもたちへ生きる力を身につけさせるため、長い歴史と伝統を育んできた東小学校、西小学校、南小学校の3校を統合し、平成31年4月に三朝小学校として開校します。統合を契機とした魅力ある学校づくりを行うとともに、幼児期から中学校までの連携と本町の特色を活かした教育に取り組みます。

○子どもたちが主体的に学ぶ意欲と態度の育成、特別な支援が必要な子ども一人ひとりの状況に応じた教育、保育所・小学校・中学校間のつながりのある連携した教育に取り組み、確かな学力を伸ばします。

○芸術や文化に触れ豊かな感性を育むとともに、他人の痛みや悲しみを理解する優しい心と協調性を育み、不登校児童生徒を含めた児童生徒の悩みに対応する体制を整え、子どもたちの豊かな心の醸成に努めます。

○子どもの発達段階を考慮しながら、体力や運動能力の向上を目指し、運動に親しむ楽しさを育成するとともに、食育や健康教育の充実に努め、家庭や地域と連携しながら健やかな身体を育みます。

○本町の産業・歴史・文化・自然環境への理解を深め、ふるさと三朝町に誇りと愛着を持つ心を育てます。

○観光・交流の町としての資質を教育に活かす取組みを推進し、外国語教育の充実に始め、国内外との交流を通じて、社会で活躍する人材の育成を目指します。

○学校、家庭、地域、行政が、それぞれの立場から連携を図り、地域が一体となって学校を支援する「教育コミュニティづくり」を推進します。

○充実した教育活動を実践するため、学校施設づくりと放課後における子どもたちの快適な居場所づくりに取り組みます。

○安定した学校運営と教職員の資質の向上を通じて、すべての子どもが安心して教育を受けられる体制づくりを進めます。

第3節 いのちと健康を育む町

第1項 いのちを育て・守り・支える

1 子育て環境の充実

現状と課題

○少子化の進行、核家族の増加や地域と家庭のつながりの希薄化など子育てを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。

○本町では、子育てに関する不安の解消と負担感の軽減を図るため、保育料の軽減など経済的な面からの支援と、相談体制の充実や情報発信による支援を行ってきました。

○出生数が伸びないひとつの要因として、子育ての不安や負担感の増大を抱えている家庭の増加と、支援を必要とする家庭の増加があり、問題となる不安や負担感を解消するための支援策の充実が求められています。

○保育施設の老朽化、多様な保育ニーズに対応し、安定的に継続可能な運営体制の構築と、幼児教育の充実が課題となっています。

○時代に即した子育て支援を進めるとともに、関係機関や地域が一体となった総合的な支援施策を推進させる必要があります。

【施策の体系】

子育て環境の充実

- 子ども・子育て支援指針の見直し
- 子どもが育つ環境の充実
- 切れ目のない子育て支援
- 地域ぐるみの子育て支援
- 母子の健康管理に関する支援

みささスタイルの実現目標

○「子ども・子育て支援事業計画」の点検・評価を行い、質の高い保育や幼児期の教育ニーズに応じた子育て支援事業の実現に向け、新たな課題の抽出や効果的な事業展開を行います。

○子育て支援情報ポータルサイトやハンドブックによる情報発信に加え、相談窓口の充実を図り、利用者の積極的な活用を促すことで、安心した妊娠、出産、育児、母子の健康づくりへつなげます。

○子育て家庭を的確に支援できるよう、地域ぐるみで子育てに携わることができる環境を整え、保護者のみならず、地域全体で「子どもの成長や子育ての喜び」を共感し合える町を目指します。

○子どもの健やかな成長発達と、子育て期の親の心身の健康管理に関する支援体制の充実を図り、特に支援が必要な妊娠・出産・産後のケアに重点を置いて取り組みます。